



写真 1 掘取りポットへ移植

業的に可能なものと考えられる。

む す び

今回の一連のさし木試験では、結果に考察を挟まず発根率についてのみ述べた。というのは挿し付け後の温度と湿度・土中温度と相対照度・乾季と雨季の採穂親木の水分生理等の諸問題がまだよく分からないからである。しかし結果

だけから言及すると、使用した9種は、僅かながらも発根性を有する事が分った。従って、*S. hypochra* の他にも事業的さし木が可能な樹種が、フタバガキ科の中に何種かあるものと推定される。特に *S. pauciflora* の密閉挿しに期待が持たれる。

図書紹介

◎森林資源の利用と再生—経済の論理と自然の論理—永田 信・井上 真・岡 裕泰著 A5版 234pp. 農山漁村文化協会, 東京, 1994. 11刊, 3,200円

本書は「全集 世界の食料 世界の農村」第25巻として刊行されたものである。3人の著者がフィリピン、インドネシア、タイをフィールドに、各々の視点でこれまでに進めてきた研究を、経済発展と森林資源利用の関係を軸にして織りあげた構成となっている。主な関心事は、既発展工業地域において経済発展の進行とともに経験してきた、森林資源の減少から回復への反転傾向が、現在、森林減少の続く途上国地域においても起こるための条件は何かという点に向けられている。その条件を見つけ出し実証するには、ここで提出された論拠だけではまだ不十分とは思われるが、しかしながら、このような研究方向は今後ますます重要となろう。日本でも、森林セクターに焦点を絞った地域研究が、東南アジア研究を中心として徐々に増えてきた。これらの研究蓄積を、発展論の文脈の中にどのようにして位置づけていくかが、これからの課題の1つと云える。本書はそうした試みの一歩である。(山本伸幸)